

動物プランクトン標本ライブラリーが完成！

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 水産総合研究センター 公開日: 2024-05-31 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 田所, 和明, 岡崎, 雄二 メールアドレス: 所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2006378

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



東北水産研究レター No.18 (2010.12)

動物プランクトン標本ライブラリーが完成！

今日、日本は多くの食料を海外から輸入しており、魚介類も例外ではありません。しかし、日本周辺の海には世界有数の漁場があり、水揚げされる魚介類を守っていくことは食料の安定供給や国内水産業の発展、さらには食料安保の観点からも大切なことです。

東北区水産研究所では、こうした水産資源の維持・安定に関する研究を進めています。水産資源の量や分布に大きな影響を及ぼすものとして、海水温と魚の餌となる生物などを挙げることができます。多くの魚は動物プランクトンを餌としているため、定期的に漁場の動物プランクトンを採集して、どんな種類がどのくらい存在しているかを調べています。このような調査は60年以上続けられてきており、採集したプランクトンをホルマリン漬けた標本にして保管してきました（写真1）。



写真1. 標本の整理作業。写真右は1949年8月に採集した動物プランクトンの一種オキアミ。

一般に、海水温の変化の速度は非常に緩やかですが、僅かな変化であってもプランクトンの発生量や死亡量には少なからず影響する可能性があります。そのため、急速に進みつつある地球温暖化などの環境変動が漁業に与える影響を正しく評価し、予測することが必要です。この

ような背景があり、平成22年3月、東北区水産研究所に動物プランクトン標本を半永久的に保存し、活用するための施設を設置しました（写真2）。



写真2. 施設の外観。
移動棚で大量の標本を効率的に収納・取り出しできる。

この施設は約50万点の標本を収めることができ、東北海区のみならず日本周辺の海で採集された標本を収蔵して公的な研究・教育機関にも利用していただけるよう準備中です。

長期にわたって蓄積してきたプランクトン標本は、水産資源の変動や地球規模の生態系変動のメカニズムの解明に役立つものと期待しています。



世界の3つの主な長期プランクトン標本コレクションの採集水域
青色は我々の調査対象水域で、その標本群は採集を始めた小達和子博士（元東北水研）にちなんで、オダテコレクションと呼ばれています。緑色は英国・プリマスにあるハーディー財団、赤色は米国・カリフォルニア州・ラホヤにあるスクリプス海洋研究所の調査対象水域です。いずれも半世紀以上にわたり調査で動物プランクトンが採集、保存され研究に利用されています。

この業務に取り組んでいる高次生産研究室の



田所和明 室長



岡崎雄二 主任研究員

コンテンツ ① 動物プランクトン標本ライブラリーが完成！ ② 魚類資源変動の影の主役